

後継者育成事業

奈良伝統工芸後継者育成研修について

奈良伝統工芸の後継者を育成・支援することにより、その技術・技法を後世に伝承することを目的として平成18年から始めました。現在の奈良伝統工芸後継者育成研修(第2期)は平成21年10月から開催しております。

また、第1期の研修者2名(一刀彫・赤膚焼)については、公募展等で入賞し、相当の成果をあげています。

研修内容

- ・工房主が行う基本的な指導
- ・なら工芸館において行う技術的な自己研修
- ・なら工芸館で開催される各種催しへの参加

研修期間は3年ですが、一年ごとに研修生からの作品の提示を受け、更新するかどうか審査が行われます。

第2期研修者

研修者	研修科目	工房主
池野江津子	奈良漆器	山本哲
中尾将啓	赤膚焼	大塩昭山
守田朋浩	奈良一刀彫	神箸勝

Ikeno Etuko

池野江津子

1983年 生まれ

平成16年 金沢美術工芸大学美術工芸学部工芸科
漆・木工専攻によるグループ展「漆展」
(以後平成18年まで毎年出品)

平成18年 キリンピアパーク北陸 第4回キリンアートコンクール入選・佳作 受賞
LIFE=ART 展(ライフ&ファッション金沢ウィーク関連) 出展

平成19年 金沢美術工芸大学美術工芸学部工芸科 漆 木工コース 卒業
第63回 金沢市工芸展入選・金沢市長奨励賞 受賞



自己紹介

大学2回生から漆・木工を専攻し、3回生前期までのおよそ1年半で髹漆の工程、木工ろくろによる挽物やくり物等の基本技術や乾漆技法を平行して学習。また、その間、定期的に集中課題として、蒔絵・螺鈿・平文・沈金・変わり塗り等の技法も、学内外の先生の指導のもと基本技術を学習。その後卒業までは自由制作で、主に乾漆技法を用いた作品を中心に制作。

研修計画(研修期間【3年間】での抱負)

大学での学習が、広く浅いものであり、又、自身が研修してきたのが主に形を追求した彫刻的な作品が多かった。しかし、漆の魅力の一つである様々な加飾を学ぶことで表現の幅・可能性を広げていきたい。中でも奈良漆器といえば螺鈿というイメージがあり是非学びたいと思っています。又、私は一方で日本や世界の民族の文様にも興味が深く、技術とうまくむすび付けておもしろい作品ができればいいと思います。具体的にどのような作品を作りたいかという、今までのような彫刻的な作品はひとまず置いておき、器や小箱など人々の実生活に使用できる物をしばらくは作っていきたくと考えます。又、発表の場として様々な公募展に出していくことも勿論ですが、同時に作品を置いてもらう店をさがすとか、直接人の手に渡るルートも考えていきたいと思っています。せっかく奈良という歴史のある土地で伝統工芸として受け継がれてきた技術があるのだから、様々な方法を模索しながら現代社会にもとけこみ、後世に残せるような物を作り・伝えていけるような作家になりたいのです。

Nakao Masahiro

中尾将啓

1980年 生まれ

平成15年 京都府立陶工高等技術専門学校 修業
岡山県備前焼窯元「西藏坊窯」入社

平成18年 大阪工芸展 入選

平成20年 岡山県備前焼窯元「西藏坊窯」退職
赤膚焼窯元「大塩昭山窯」へ



自己紹介

陶工専門学校で1年ロクロ形成の勉強をさせて頂き就職では、その技術を自分のものにきっちりできる様ロクロ形成を主にさせて頂ける仕事場、ということで備前焼窯元に就職しました。岡山では5年間ロクロ形成と共に、薪窯の焚き方、お客様との接し方等勉強させて頂きました。

研修計画(研修期間【3年間】での抱負)

今まで、まだまだ勉強しきれない釉薬や上絵付、又、今までとは違うロクロ形成を学びたいです。一番興味があるのは釉薬の品を薪窯で焼く時の窯の詰め方など薪窯に関する所です。ガス、灯油、電気、薪の窯を体験しましたが、薪窯が一番好きです。仕事としてはあまり効率的では無いかもしれませんが、色、作品の雰囲気、共に1つ1つの作品になるので薪窯のことをもっと深く知っていきたくです。又、釉薬については、今までほとんど関わっていないので、その特徴、くせ、注意すべき点、扱い方など、わからない所が多いので、その所を一から憶えていき、自分の物にしていきたいです。将来の発表活動については、今どのような発表をしようとは考えていませんが、自分の技術が発表できる高さまでくれば、その時、自分の出来ることを出来る場所でやっていきたいです。3年間でどこまで出来るかわかりませんが吸収できる事はより多く吸収し、より良い陶器作りができるよう精進していきます。

Morita Tomohiro

守田朋浩

1983年 生まれ

平成15年 京都伝統工芸専門学校 仏像彫刻科 卒業
仏師 由谷具忘工房 入所

平成16年 仏師 由谷具忘工房 退職

平成18年 神箸一刀彫研究所 入所



自己紹介

私は子供の頃より美術に関心がありました。高校在学中に将来彫刻家になりたいと思い、卒業後2年間専門学校で仏像彫刻と美術史を勉強しました。その後、仏師の下に弟子入りし、今現在神箸先生の下で一刀彫を学んでいます。

研修計画(研修期間【3年間】での抱負)

奈良一刀彫には、彫刻の技術、彩色、デッサン力、この三点は絶対必要です。この研修でそれらの事を一から徹底的に学びたいと思います。この研修中に制作したい物は、あらゆる種類の奈良人形です。特に森川杜園の作品の模刻に挑戦してみたいと思っています。そして、自分の作品を公募展など色々な場所で発表していこうと考えてます。そうすることによって自分の実力もわかるし、作品に対する客観的な意見を聞けると思うからです。この3年間の研修を終える頃には、プロの一刀彫作家として恥ずかしくない技術を身につけ奈良一刀彫の伝統を守り、更に発展させていく作家になるのが私の目標です。